

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Tissue polypeptide specific antigen (TPS), a marker for differentiation between pancreatic carcinoma and chronic pancreatitis. A comparative study with CA 19-9	
	論文の日本語タイトル		
診療科/担当科情報	診療科/担当科での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	診療科/担当科での目次名称	膵癌の診断法: ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	89	
	号	83-88	
	ページ		
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
著者情報	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2000	
	筆頭著者	氏名	所属機関
	筆頭著者	Slesak B	Dept of Gastrointestinal Surgery of Wronclaw Medical University
	その他著者 1	Hartozinska-Szmyka A	
	その他著者 2	Knast W	
	その他著者 3	Sedlaczek P	
	その他著者 4	van Dalen A	
	その他著者 5	Einarsson R	
	その他著者 6		
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	Tissue polypeptide specific antigen (TPS)の臨床的意義をCA19-9と対比比較する。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	Dept of Gastrointestinal Surgery of Wronclaw Medical University		
対象者	慢性膵炎 (74人)あるいは膵癌 (48人)の計122人(1995年1月~1998年12月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	膵癌 vs 慢性膵炎におけるTSPとCA19-9		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	血清TPS	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	CA19-9	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	ROC curve analysis	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	TPSのcut-off 値を200U/mlとすると感度97%、特異度98%で膵癌を慢性膵炎から区別することができた。一方、TPSの特異度を98%となるようにcut-off 値を設定すると、感度は33%と非常に低くなった。		
結論	TPS のcut-off 値を200U/mlとするとほぼ完全に膵癌と慢性膵炎の鑑別が可能である。TPSはCA19-9に比べて膵癌と慢性膵炎の鑑別診断能がよい。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	清水京子, 福田 晃	
レビュワーコメント	レビュワーコメント	48人の膵癌を対照にしているの、さらに大規模な検討が必要と思われる。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A prospective study of serum tumor markers carcinoembryonic antigen , carbohydrate antigen 50 and 242, tissue polypeptide antigen and tissue polypeptide specific antigen in the diagnosis of pancreatic cancer with special reference to multivariate diagnostic score	
	論文の日本語タイトル		
診療科/担当科情報	診療科/担当科での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	診療科/担当科での目次名称	膵癌の診断法: ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	69	
	号		
	ページ	562-565	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
著者情報	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1994	
	筆頭著者	氏名	所属機関
	筆頭著者	Pasanen PA	Kuopio University Hospital
	その他著者 1	Eskelinen M	
	その他著者 2	Partanen K	
	その他著者 3	Pikkarainen P	
	その他著者 4	Penttila I	
	その他著者 5	Alhava E	
	その他著者 6		
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵癌診断におけるCEA, CA50, CA242, TPA, TPSをstepwise multivariate discriminant analysisにて検討する。	
研究デザイン	Evidence level III		
セッティング	Kuopio University Hospital		
対象者	黄疸あるいは黄疸のない胆汁うっ滞で入院した患者193例(黄疸113例, 黄疸のない胆汁うっ滞20例, 慢性膵炎または膵腫瘍疑い60例(膵癌24例, 乳頭部癌2例)) (1985年12月~1988年5月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	膵癌と良性胆膵疾患における各種腫瘍マーカー		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	血清CEA	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	CA50	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	CA242	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4	TPA	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
5	TPS	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	CA50, TPA は膵癌の予測によく、 CA242, TPS は独立した discriminating power がある。CA50, TPS を併用した場合の discriminating function の感度は44%、特異度89%、効果は82%であった。		
結論	いずれの組み合わせでも感度が低いが、CA50とTPSの併用が膵癌診断には最もよい。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	清水京子, 羽島 隆	
レビュワーコメント	レビュワーコメント	CA50, TPAは測定可能であるが、膵癌ではほとんど使用されていない。	

一次研究用フォーム		データ取入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A prospective multicenter trial evaluating diagnostic validity of multivariate analysis and individual serum marker in differential diagnosis of pancreatic cancer from benign pancreatic diseases	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの日次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Pancreatol	
	雑誌 ID		
	巻	25	
	号		
	ページ	23-29	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1999		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hayakawa T	名古屋大学、愛知がんセンター、さかした病院を始めとした7施設
	その他著者 1	Naruse S	
	その他著者 2	Kitagawa M	
	その他著者 3	Ishiguro H	
	その他著者 4	Kondo T	
	その他著者 5	Kurimoto K	
	その他著者 6	Fukushima M	
	その他著者 7	Takayama T	
	その他著者 8	Horiguchi Y	
	その他著者 9	Kuno N	
その他著者 10	Noda A et al.		

一次研究の8項目	目的	膵癌と良性膵疾患の鑑別におけるComputer-aided multivariate and pattern analysis system for pancreatic cancer examination 2 (CAMPAS-PX2) の有用性。
研究デザイン	Evidence level III	
セッティング	名古屋大学、愛知がんセンター、さかした病院を始めとした7施設	
対象者	1. 腹痛あるいは不快感、2. 最近発症の背部痛、3. 5%以上の体重減少、4. 突然発症の黄疸、5. DMの最近の悪化、6. 腹部腫瘍触知、あるいは圧痛、7. 膵酵素の上昇など一つあるいは複数あてはまる260人の患者 (1992年4月～1993年3月)	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (22)	
介入 (要因曝露)	膵癌と良性膵疾患におけるCAMPAS-PX2と個々の血清マーカーの比較	
エンドポイント (アウトカム)	区分	
1	CAMPAS-PX2	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	各種血清マーカーの陽性検出率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3		1.主要 2.副次 3.その他 (1)
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	27人に膵癌を認め、膵癌におけるCAMPAS-PX2の positive in disease, negative in health, area under operating characteristic curveはそれぞれ89、87、91%で、個々のマーカーのうち最も感度の高いCA19-9より有意の高値であった。	
結論	CAMPAS-PX2の multivariate analysisは膵癌と良性膵疾患の鑑別診断能を向上させるが、正確度は十分ではない。	
備考		
レビュワー氏名	清水京子、福田 晃	
レビュワーコメント	日本におけるprospective multicenter trialであることに意義がある。	

一次研究用フォーム		データ取入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical usefulness of CA19-9 in pancreatic carcinoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの日次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Semin Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号		
	ページ	15-22	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1998		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Nakao A	名古屋大学第二外科
	その他著者 1	Oshima K	
	その他著者 2	Nomoto S	
	その他著者 3	Takeda S	
	その他著者 4	Kaneko T	
	その他著者 5	Ichihara T	
	その他著者 6	Kurokawa T	
	その他著者 7	Nonami T	
	その他著者 8	Takagi H	
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	術前・術後の血清CA19-9値の有用性について明らかにする。
研究デザイン	Evidence level IV	
セッティング	名古屋大学第二外科	
対象者	膵癌148例	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (22)	
介入 (要因曝露)	なし	
エンドポイント (アウトカム)	区分	
1	術前・術後のCA19-9値	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	術中膵切除断端の CA19-9	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3	CEA 迅速免疫染色	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	Stage I,II,IIIの切除可能患者の血清CA19-9値は1.344U/ml以下で Stage IV患者では5.32,340U/mlであった。術後生存期間はCA19-9術前値2,000U/ml以下であった患者の方がそれ以上であった患者より優れていた。CA19-9術前値2,000U/ml以上で切除可能であった15例は2年以内に再発死亡 (特に肝転移) していた。術中膵切除断端のCA19-9・CEA迅速免疫染色は膵切除断端の密浸潤の判定に有用であった。	
結論	術前・術後のCA19-9値は切除可能性、切除後の生存予測に有用で、術中膵切除断端のCA19-9・CEA迅速免疫染色は膵切除断端の密浸潤の判定に有用であった。	
備考		
レビュワー氏名	羽島 隆、白鳥敬子	
レビュワーコメント	術後長期の経過には触れていないが、血清CA19-9測定が切除後の再発予測に有用であることを示唆している。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic value of CA19-9 serum course in pancreatic cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Hepatogastroenterology	
	雑誌 ID		
	巻	45	
	号		
	ページ	253-259	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1998		
著者情報	氏名	筆頭著者	所属機関
		Saif F	Ulm 大学一般外科
		Schlosser W	
		Falkenreck S	
		Beger HG	

一次研究の8項目	目的	CA19-9の膵癌の診断、切除可能性の感度・得真度および予後指標としての有用性を明らかにすること。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Ulm大学一般外科	
	対象者	全体で2119例 (膵癌347例 (切除126例, 非切除221例))	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	血清CA19-9	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	CA19-9の感度は85%、ルイス血液型陽性では92%。膵癌切除後の方が非切除例よりCA19-9値が有意に低い。CA19-9値は切除後著明に低下するが、正常化しStage I 29%、Stage II 13%、Stage III 10%。非切除例では開腹やバイパス術後に有意な低下はみられなかった。MSTはCA19-9が切除後正常域まで低下した患者の方が、正常域まで低下しなかった患者より有意に長かった。再発例の88%でCA19-9の明らかな上昇を認めた。	
	結論	血清CA19-9の測定は、診断、切除可能性の予測、切除後の生存率や再発可能性の評価に有用な簡便な検査法である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	羽島 隆, 白鳥敬子	
	レビューワーコメント	膵癌切除後のfollow upにCA19-9が有用であることを示している。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prediction of recurrence and survival by post-resection CA19-9 values in patients with adenocarcinoma of the pancreas	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	4	
	号		
	ページ	551-556	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997		
著者情報	氏名	筆頭著者	所属機関
		Montgomery RC	Department of Surgical Oncology, Fox Chase Cancer Center
		Hoffman JP	
		Riley LB	
		Rogatko A	
		Ridge JA	
		Eisenberg BL	

一次研究の8項目	目的	術後CA19-9の測定が予後予測となるか否か。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Department of Surgical Oncology, Fox Chase Cancer Center	
	対象者	膵癌切除例40例 (8例はCA19-9値が低く除外) (1988~1996年)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	術後CA19-9値	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	術後CA19-9値が3~6ヶ月で正常値 (< 37U/ml) になった患者の disease-free survival (DFS) とMSTは有意に延長していた。また、3~6ヶ月で180U/ml以下になった患者も同様に良好な成績であった	
	結論	術後CA19-9の測定はDFSとMSTのよい指標となった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	羽島 隆, 白鳥敬子	
	レビューワーコメント	CA19-9の膵癌切除後のfollow upに有用である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	.	
	論文の日本語タイトル	施設超音波検査の実態とその予後に関する検討	
診療が引用情報	引用の有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	引用上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	日本消化器集団検診学会雑誌	
	雑誌 ID		
	巻	37	
	号		
	ページ	293-299	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1999	
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	増田英明	
	その他著者 1	今村清子	
	その他著者 2	酒井辰彦	
	その他著者 3	四宮由美子	
	その他著者 4	小松弘一	
	その他著者 5	西山和男	
	その他著者 6	土橋 健	
	その他著者 7	佐島敬清	
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	超音波 (US) 検査で発見された膵癌の実態と予後について検討。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	横浜市民病院がん検診センター		
対象者	肝臓超音波検査診症-総受診者16,964名 (1987年6月~1996年3月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	なし		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	膵癌発見率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	US 陽性所見率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	予後	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	発見膵癌は10例 (発見率0.06%)、US陽性所見率1.3%、膵癌の5年生存率28.6%であった。		
結論	予後良好な膵癌発見のためには、USで膵管拡張などの間接所見を積極的に精査すべきである。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	羽島 隆, 福田 晃	
レビュワーコメント	レビュワーコメント	US施行者のレベルについては言及していない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	.	
	論文の日本語タイトル	腹部超音波検査における膵癌発見の現状	
診療が引用情報	引用の有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	引用上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	日本消化器集団検診学会雑誌	
	雑誌 ID		
	巻	41	
	号		
	ページ	25-29	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	2003	
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	北川元二	
	その他著者 1	成瀬 達	
	その他著者 2	石黒 洋	
	その他著者 3	水野伸匡	
	その他著者 4	斎藤征夫	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	臓器検査において超音波検査で発見された膵癌の実態について検討。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	名古屋大学病態修復内科		
対象者	臓器検査を受けた延べ87,597例 (1993年4月~2002年3月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	なし		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	超音波検査での膵の異常所見数	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	膵癌の内訳	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	膵の異常所見は753例 (0.9%) で、膵癌4例であった。		
結論	臓器検査では膵癌発見の効率は低い。腹部超音波検査の有所見者に超音波内視鏡検査や造影CT検査などの二次検査を行うことが有用。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	羽島 隆, 福田 晃	
レビュワーコメント	レビュワーコメント	腹部超音波検査を用いた膵癌検査の非効率性について言及している。	

一次研究用フォーム		データ型入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Evaluation of routine sonography for early detection of pancreatic cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Jpn J Clin Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	26	
	号		
	ページ	422-427	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1996		
著者情報	氏名		所属機関
	筆頭著者	Tanaka S	大阪府立成人病センター研究所
	その他著者 1	Kitamura T	
	その他著者 2	Yamamoto K	
	その他著者 3	Fujikawa S	
	その他著者 4	Imaoka T	
	その他著者 5	Nishikawa S	
	その他著者 6	Nakaizumi A	
	その他著者 7	Uehara H	
	その他著者 8	Ishikawa O	
	その他著者 9	Ohigashi H	
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵臓同定に対するルーチン腹部超音波検査の診断の正確性について検討した。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	大阪府立成人病センター研究所	
	対象者	腹部に異常を訴えた9,410例の患者 (計12,761回の腹部超音波検査) 1年間(1994年)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	確診、疑診、精査勧告の3群に分けて検討	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	超音波所見	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	655例 (7%) で膵臓の一部が観察できなかったが、411例で膵臓が疑われた。1995年末までに51例が膵臓であり、内45例は膵管癌であった。膵臓51例中50例は膵臓所見陽性であったが、1例は偽陰性であり、膵臓所見陽性50例中4例は腫瘍径1cm以下であった。		
結論	膵臓同定に対する腹部超音波診断の正確性は高いので、主たる手段として超音波検査を用いた膵臓の集団検診を目的とした詳細な研究は、膵臓が急速に増加している日本で正当化されるであろう。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	羽鳥 隆, 福田 晃	
	レビュワーコメント	超音波検査施行者の基礎が明確でないもの (よく訓練されたところ) が、膵臓スクリーニングに対する腹部超音波検査の有用性を明らかにしている。	

一次研究用フォーム		データ型入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Main pancreatic duct dilation : A sign of high risk for pancreatic cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Jpn J Clin Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	32	
	号		
	ページ	407-411	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002		
著者情報	氏名		所属機関
	筆頭著者	Tanaka S	大阪府立成人病センター研究所
	その他著者 1	Nakaizumi A	
	その他著者 2	Ioka T	
	その他著者 3	Oshikawa O	
	その他著者 4	Uehara H	
	その他著者 5	Nakao M	
	その他著者 6	Yamamoto K	
	その他著者 7	Ishikawa O	
	その他著者 8	Ohigashi H	
	その他著者 9	Kitamura T	
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	主膵管拡張が膵臓の高リスクファクターであるかをレトロスペクティブに評価する。	
	研究デザイン	Evidence level III	
	セッティング	大阪府立成人病センター研究所	
	対象者	膵前癌変異群39例および対照群10,244例 (1997~1999年)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	ケースコントロール研究	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腹部超音波における主膵管拡張	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	軽度膵管拡張 (2mm) は膵癌切除まで4年以上の前癌病変の65%に認められ、年齢調整対照群では、5.35%に認められた。また、前癌病変群の拡張主膵管の平均直径は時間の経過とともに増加した。		
結論	主膵管の軽度拡張は膵癌に対する高危険のサインであり、高危険患者の系統的検査は膵癌の早期発見に必要であると考えられた。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	西野隆寛, 白鳥敬子	
	レビュワーコメント	主膵管の拡張が膵癌の前癌病変の発見に有用かを検討した後ろ向き研究。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A prospective study of detection of pancreatic carcinoma by combined plasma Kras mutation and serum CA19-9 analysis.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Pancreas	
	雑誌 ID		
	巻	25	
	号		
	ページ	336-341	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Dianxu F	Ruijin Hospital, Shanghai Second Medical University
	その他著者 1	Shengdao Z	
	その他著者 2	Tianquan.H	
	その他著者 3	Yu J	
	その他著者 4	Ruoqing L	
	その他著者 5	Zurong Y	
	その他著者 6	Xuezhi W	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	血中k-ras mutationと血清CA19-9の併用による膵癌診断の価値について。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	Ruijin Hospital, Shanghai Second Medical University		
対象者	膵臓癌を疑われた連続した58人 (1998年4月~1999年11月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	健常人21人vs膵癌41人		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	k-ras codon12のmutation	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	血清中の CA19-9	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	Kras mutationは健常人では検出されず、膵癌では70.7%が陽性だった。CA19-9上昇は膵癌の73.5%に認められた。膵癌の90.2%が両者のいずれかが陽性だった。		
結論	K-rasとCA19-9の併用により膵癌の検出率が向上した。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	清水京子, 福田 晃	
	レビュワーコメント	最近の論文であるが、新しい情報に乏しい。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Detection of Kras mutations in the plasma DNA of pancreatic cancer patients	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Gastroenterol	
	雑誌 ID		
	巻	39	
	号		
	ページ	56-60	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Uemura T	名古屋大学医学研究科病態制御外科学
	その他著者 1	Hibi K	
	その他著者 2	Kaneko T	
	その他著者 3	Takeda S	
	その他著者 4	Inoue S	
	その他著者 5	Okochi O	
	その他著者 6	Nagasaki T	
	その他著者 7	Nakao A	
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵癌の早期診断を正確に行うこと	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	名古屋大学医学研究科病態制御外科学		
対象者	膵癌切除例28		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	なし		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	K-ras 遺伝子変異	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	原発巣では26例 (93%) にK-ras遺伝子変異がみられ、そのうち9例 (35%) では血漿にもK-ras遺伝子変異が認められた。		
結論	血漿中のK-ras遺伝子変異の検出は、膵癌のスクリーニングやモニタリングに適用しうる可能性が示唆された。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	羽鳥 隆, 福田 晃	
	レビュワーコメント	血漿でのK-ras遺伝子変異の陽性率が低く、膵癌スクリーニングに効果的であるか疑問。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical significance of serum p53 antigen in patients with pancreatic carcinomas	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法: ファーストステップは何か	
	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
書誌情報	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gut	
	雑誌 ID		
	巻	40	
	号		
	ページ	647-653	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	1997		
著者情報	氏名		所属機関
	筆頭著者	Suwa H	Department of Surgery, Kyoto University
	その他著者 1	Ohshio G	
	その他著者 2	Okada N	
	その他著者 3	Wang Z	
	その他著者 4	Fukumoto M	
	その他著者 5	Imamura T	
	その他著者 6	Imamura M	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	血清p53値が腫瘍におけるp53変異を反映するか否かを検討する。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Department of Surgery, Kyoto University	
	対象者	膵癌104例, 健常人35例, 慢性膵炎15例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	血清p53値	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	p52 免疫組織染色	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	血清p53値は、膵癌、健常人および慢性膵炎で、各々0.27±0.02, 0.15±0.02, および0.15±0.02であり、膵癌で有意に高値であった。血清p53のcut off値を0.37ng/mlとすると膵癌での陽性率は22.1%であり、遠隔転移例でのp53陽性率が、遠隔転移陰性例に比べ、有意に高率であった。膵癌切除後に、血清p53値の有意な低下を認めた。p53免疫組織染色では、膵癌における陽性率は45.9%であった。血清p53値は、p53免疫染色陽性例が陰性例に比べ有意に高値を示した。血清p53陽性例の80%が免疫染色においてp53陽性を示した		
結論	膵癌の進展により血清p53値の増加がみられ、p53変異に基づくp53の組織集積と相関すると考えられた。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	西野隆哉, 白鳥敬子	
	レビューワーコメント	膵癌症例で、TNM分類あるいはStageの記載がされていない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Carcinoma of the pancreas and papilla of Vater: Presenting symptoms, signs, and diagnosis related to stage and tumour site. A prospective multicentre trial in 472 patients. Norwegian Pancreatic Cancer Trial	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法: セカンドステップは何か	
	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
書誌情報	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Scand J Gastroenterol	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号		
	ページ	317-325	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	1992		
著者情報	氏名		所属機関
	筆頭著者	Bakkevold KE	Dept. of Surgery, Haukeland University Hospital, Norway
	その他著者 1	Arnesjo B	
	その他著者 2	Kambestad B	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵癌・乳頭部癌における臨床症状、診断までの時間、病期、腫瘍部位別の診断能を検討。	
	研究デザイン	Evidence level V	
	セッティング	Dept. of Surgery, Haukeland University Hospital, Norway	
	対象者	膵癌442例, 乳頭部癌30例 (1984年4月~1987年4月)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	臨床症状、診断までに要した期間、画像検査	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	臨床症状	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	診断までの時間、	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	画像検査	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	黄疸は比較的早期に多く、腹痛・体重減少はより進行例が多かった。全体の診断能では、感度はERCP: 79%, CT: 75%, US: 57%, 血管造影 43%, FNA 86%, PTC: 85%であった。Stage IIに限れば、PTCとERCPの感度が78%, CT: 52%, US: 40%であった。発症から診断までに要した時間はStage Iおよび乳頭部癌で最長であった。		
結論			
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	水野伸臣, 澤木 明	
	レビューワーコメント	この論文では特に何かを結論づけてはいない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic cancer versus chronic pancreatitis: Diagnosis with CA 19-9 assessment, US, CT, and CT-guided fine-needle biopsy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法: セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Radiology	
	雑誌 ID		
	巻	178	
	号		
	ページ	95-99	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1991		
著者情報	氏名		
	所属機関		
	筆頭著者	DelMaschio A	Department of Radiology, University Hospital, Milan, Italy
	その他著者 1	DelMaschio A	
	その他著者 2	Vanzulli A	
	その他著者 3	Sironi S	
	その他著者 4	Castrucci M	
	その他著者 5	Mellone R	
	その他著者 6	Staudacher C	
	その他著者 7	Carlucci M	
	その他著者 8	Zerbi A	
その他著者 9	Parolini D		
その他著者 10	Faravelli A et al.		

一次研究の8項目	目的	膵臓癌診断におけるCA19-9, US, CT, CT-guided FNABの診断能の比較。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Department of Radiology, University Hospital, Milan, Italy	
	対象者	膵癌あるいは慢性膵炎 (CP) が疑われ、USあるいはCTで膵臓癌を認めた81例 (膵癌54例, CP 27例) (1984年12月~1986年12月)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	CA19-9, US, CT, CT-FNAB	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	診断能 (感度, 特異度, PPV, NPV)	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	CA19-9, US, CT, CT-FNABの診断不能率は0, 25, 19, 6%, 感度は81, 88, 94, 100%, 特異度は81, 90, 95, 100%, PPVは90, 95, 98, 100%, NPVは69, 95, 86, 100%であった。	
	結論	CT-FNABは膵臓癌診断において唯一信頼できる検査方法である。膵癌あるいはCPが疑われた場合、まずUSを行い、次にCT-FNABを行うべきである。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	水野伸匡, 澤木 明	
	レビューワーコメント	この研究では腫瘍の大きさに言及していない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Dynamic imaging of pancreatic diseases by contrast enhanced coded phase inversion harmonic ultrasonography	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法: セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gut	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号		
	ページ	854-859	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004		
著者情報	氏名		
	所属機関		
	筆頭著者	Kitano M	Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Kinki University School of Medicine, Ohno-Higashi, Osaka-Sayama, Japan
	その他著者 1	Kudo M	
	その他著者 2	Maekawa K	
	その他著者 3	Suetomi Y	
	その他著者 4	Sakamoto H	
	その他著者 5	Fukuta N	
	その他著者 6	Nakaoka R	
	その他著者 7	Kawasaki T	
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵臓癌診断におけるcontrast enhanced coded phase inversion harmonic ultrasonography (CE-US) 法の検討。	
	研究デザイン	Evidence level V	
	セッティング	Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Kinki University School of Medicine, Ohno-Higashi, Osaka-Sayama, Japan	
	対象者	膵臓癌が疑われた65名 (2001年3月~2003年8月)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	CE-US vs 造影CT (CE-CT) vs EUS	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	CE-USでは血流パターン	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	CE-CTでは造影効果	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	EUS 後	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	CE-USでは、膵癌の67%はhypovascularでCE-CTの結果と相関した。2 cm以下の小病変に対する感度は、造影CT 68%, EUS 95%, CE-US 95%。2 cm超では3群間で差はなし。	
	結論	CE-USは膵臓癌の検出および鑑別診断に有用。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	水野伸匡, 澤木 明	
	レビューワーコメント	低侵襲な検査法である。血流パターンの定量化が課題。	

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiologic diagnosis and staging of pancreatic ductal adenocarcinoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法：セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (12)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Radiol Clin North Am	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号		
	ページ	121-128	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.看護 3.看護 4.その他 (1)	
原言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1989		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Freeny PC	Virginia Mason Clinic
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	各種画像検査 (CT, US, ERCP, 血管造影) による膵癌診断と病期診断能に関する総説。
	データソース	Virginia Mason Clinic
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	膵癌診断において、ダイナミック CT では感度 98.8% (159/161) で、13 例が疑陽性であった。US の診断能は CT より劣る。ERCP で正常膵管像であった膵癌症例は 2.8% (15/530) であった。血管造影は内分泌腫瘍などの鑑別に有用である。一方、病期診断においては、CT にて 161 例中、13 例のみが切除可能と判断された。68% が局所進展によって、84% が血管浸潤によって切除不能であった。血管浸潤において、血管造影は 74% の症例において CT と同様の情報が得られたが、21% では CT でしか所見が得られず、5% の症例のみ血管造影が CT に勝っていた。
結論	ダイナミック CT は膵癌の診断と病期診断において、唯一、最良の検査である。	
備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	水野伸匡, 澤木 明
	レビューワーコメント	総説であり、症例の内訳 (Stage など) や結果などについての詳細な結果がなく、エビデンスレベルは低くなる。Evidence level VI

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic cancer detection with magnetic resonance cholangiopancreatography and endoscopic retrograde cholangiopancreatography: A prospective controlled study	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法：セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻	356	
	号		
	ページ	190-193	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.看護 3.看護 4.その他 (1)	
原言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2000		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Adamek HE	ドイツ, メインツ大学病院
	その他著者 1	Albert J	
	その他著者 2	Breer H	
	その他著者 3	Weitz M	
	その他著者 4	Schilling D	
	その他著者 5	Riemann JF	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	MRCPによる膵癌と膵炎の鑑別診断能を評価。	
	研究デザイン	Evidence level III	
	セッティング	ドイツ, メインツ大学病院	
	対象者	臨床的に膵臓癌が強く疑われた141人中の124人 (1996年2月~1998年1月)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	ERCPとMRCP	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	ERCP診断の感度, 特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	MRCP診断の感度, 特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	膵癌に対するERCPの感度, 特異度は70.3%, 94.3%. MRCPの感度, 特異度は83.8%, 96.6%で有意差は認めなかった。		
結論	膵癌を疑われる場合, 安全性を考慮するとMRCPが勧められる。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	澤木 明, 水野伸匡	
	レビューワーコメント	プロスペクティブな比較試験であるので症例対象研究よりエビデンスレベルが高いと考え、レベルIIIとした。本試験でMRCPの非劣勢が示されているが、ERCPの所見がどこまで拾い上げられているかは記載されていないので、ERCPの診断能も考慮しないとERCPが過小評価される可能性がある。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A prospective multicenter trial evaluating diagnostic validity of multivariate analysis and individual serum marker in differential diagnosis of pancreatic cancer from benign pancreatic diseases	
	論文の日本語タイトル		
診療科/付随情報	引用の有無	1.有り 2.無し (1)	
	引用上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.システマチック比較試験 4.非システマチック比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Pancreatol	
	雑誌 ID		
	巻	25	
	号		
	ページ	23-29	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1999		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Hayakawa T	名古屋大学、愛知がんセンター、さかした病院を始めた7施設
	その他著者 1	Naruse S	
	その他著者 2	Kitagawa M	
	その他著者 3	Ishiguro H	
	その他著者 4	Kondo T	
	その他著者 5	Kurimoto K	
	その他著者 6	Fukushima M	
	その他著者 7	Takayama T	
	その他著者 8	Horiguchi Y	
	その他著者 9	Kuno N	
その他著者 10	Noda A et al.		

一次研究の8項目	目的	膵癌と良性膵疾患の鑑別におけるComputer-aided multivariate and pattern analysis system for pancreatic cancer examination 2 (CAMPAS-PX2) の有用性。	
研究デザイン	Evidence level III		
セッティング	名古屋大学、愛知がんセンター、さかした病院を始めた7施設		
対象者	1. 腹部痛あるいは不快感, 2. 最近発症の背部痛, 3. 5%以上の体重減少, 4. 突然発症の黄疸, 5. DMの最近の悪化, 6. 腹部腫瘍触知, あるいは圧痛, 7. 膵酵素の上昇などに一つあるいは複数あてはまる260人の患者 (1992年4月~1993年3月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	膵癌と良性膵疾患におけるCAMPAS-PX2と個々の血清マーカーの比較		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	CAMPAS-PX2	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	各種血清マーカーの陽性検出率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	27人に膵癌を認め、膵癌におけるCAMPAS-PX2のpositive in disease, negative in health, area under operating characteristic curveはそれぞれ89, 87, 91%で、個々のマーカーのうち最も感度の高いCA19-9より有意の高値であった。		
結論	CAMPAS-PX2のmultivariate analysisは膵癌と良性膵疾患の鑑別診断能を向上させるが、正確度は十分ではない。		
備考			
レビュワー氏名	清水京子, 福田 晃		
レビュワーコメント	日本におけるprospective multicenter trialであることに意義がある。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical usefulness of CA19-9 in pancreatic carcinoma	
	論文の日本語タイトル		
診療科/付随情報	引用の有無	1.有り 2.無し (1)	
	引用上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.システマチック比較試験 4.非システマチック比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Semin Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号		
	ページ	15-22	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1998		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Nakao A	名古屋大学第二外科
	その他著者 1	Oshima K	
	その他著者 2	Nomoto S	
	その他著者 3	Takeda S	
	その他著者 4	Kaneko T	
	その他著者 5	Ichihara T	
	その他著者 6	Kurokawa T	
	その他著者 7	Nonami T	
	その他著者 8	Takagi H	
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	術前・術後の血清CA19-9値の有用性について明らかにする。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	名古屋大学第二外科		
対象者	膵癌148例		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	なし		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	術前・術後のCA19-9値	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	術中切除断端のCA19-9	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	CEA 迅速免疫染色	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	Stage I,II,IIIの切除可能患者の血清CA19-9値は1,344U/ml以下でStage IV患者では5,32,340U/mlであった。術後生存期間はCA19-9術前値2,000U/ml以下であった患者の方がそれ以上であった患者より優れていた。CA19-9術前値2,000U/ml以上で切除可能であった15例は2年以内に再発死亡 (特に肝転移) していた。術中切除断端のCA19-9・CEA迅速免疫染色は切除断端の癌浸潤の判定に有用であった。		
結論	術前・術後のCA19-9値は切除可能性、切除後の生存予測に有用で、術中切除断端のCA19-9・CEA迅速免疫染色は切除断端の癌浸潤の判定に有用であった。		
備考			
レビュワー氏名	羽鳥 隆, 白鳥敬子		
レビュワーコメント	術後長期の経過には触れていないが、血清CA19-9測定が切除後の再発予測に有用であることを示唆している。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic value of CA19-9 serum course in pancreatic cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタアナリシス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Hepatogastroenterology	
	雑誌 ID		
	巻	45	
	号		
	ページ	253-259	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1998		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Safi F	Ulm 大学一般外科
	その他著者 1	Schlosser W	
	その他著者 2	Falkenreck S	
	その他著者 3	Beger HG	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	CA19-9の膵癌の診断、切除可能性の感度・得異度および予後指標としての有用性を明らかにすること。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	Ulm大学一般外科		
対象者	全体で2119例 (群別126例, 非群別221例)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
介入 (要因曝露)	なし		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	血清CA19-9	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	CA19-9の感度は85%、ルイス血液型陽性では92%。膵癌切除例の方が非切除例よりCA19-9値が有意に低い。CA19-9値は切除後著明に低下するが、正常化しStage I 29%、Stage II 13%、Stage III 10%。非切除例では開腹やバイパス術後に有意な低下はみられなかった。MSTはCA19-9が切除後正常域まで低下した患者の方が、正常域まで低下しなかった患者より有意に長かった。再発例の88%でCA19-9の明らかな上昇を認めた。		
結論	血清CA19-9の測定は、診断、切除可能性の予測、切除後の生存率や再発可能性の評価に有用な簡便な検査法である。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	羽島 隆, 白鳥敬子	
	レビュワーコメント	膵癌切除後のfollow-upにCA19-9が有用であることを示している。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prediction of recurrence and survival by post-resection CA19-9 values in patients with adenocarcinoma of the pancreas	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタアナリシス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	4	
	号		
	ページ	551-556	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Montgomery RC	Department of Surgical Oncology, Fox Chase Cancer Center
	その他著者 1	Hoffman JP	
	その他著者 2	Riley LB	
	その他著者 3	Rogatko A	
	その他著者 4	Ridge JA	
	その他著者 5	Eisenberg BL	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	術後CA19-9の測定が予後予測となるか否か。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	Department of Surgical Oncology, Fox Chase Cancer Center		
対象者	膵癌切除例40例 (8例はCA19-9値が低く除外) (1988~1996年)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
介入 (要因曝露)	なし		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	術後CA19-9値	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	術後CA19-9値が3~6ヶ月で正常値 (< 37U/ml) になった患者の disease-free survival (DFS) とMSTは有意に延長していた。また1~3ヶ月で180U/ml以下になった患者も同様に良好な成績であった。		
結論	術後CA19-9の測定はDFSとMSTのよい指標となった。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	羽島 隆, 白鳥敬子	
	レビュワーコメント	CA19-9の膵癌切除後のfollow-upに有用である。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	.	
	論文の日本語タイトル	施設検査発見膵癌の実態とその予後に関する検討	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	日本消化器学会雑誌	
	雑誌 ID		
	巻	37	
	号		
	ページ	293-299	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)		
発行年月	1999		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	増田英明	横浜市市民病院がん検診センター
	その他著者 1	今村清子	
	その他著者 2	酒井辰彦	
	その他著者 3	四宮由美子	
	その他著者 4	小松弘一	
	その他著者 5	西山和男	
	その他著者 6	土橋 健	
	その他著者 7	佐島敬清	
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	超音波（US）検査で発見された膵癌の実態と予後について検討。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	横浜市市民病院がん検診センター	
	対象者	肝胆膵超音波検査延べ総受診者16,964名（1987年6月～1996年3月）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	なし	
	エンドポイント（アウトカム）	区分	
	1	膵癌発見率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	US 陽性所見率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	予後	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	発見膵癌は10例（発見率0.06%）、US陽性所見率1.3%、膵癌の5年生存率28.6%であった。	
	結論	予後良好な膵癌発見のためには、USで膵管拡張などの間接所見を積極的に精査すべきである。	
	備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	羽鳥 隆、福田 晃	
	レビューワーコメント	US施行者のレベルについては言及していない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	.	
	論文の日本語タイトル	腹部超音波検査における膵癌発見の現状	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	日本消化器学会雑誌	
	雑誌 ID		
	巻	41	
	号		
	ページ	25-29	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)		
発行年月	2003		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	北川元二	名古屋大学病態修復内科
	その他著者 1	成瀬 達	
	その他著者 2	石黒 洋	
	その他著者 3	水野伸匡	
	その他著者 4	斎藤征夫	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	臓域検査において超音波検査で発見された膵癌の実態について検討。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	名古屋大学病態修復内科	
	対象者	臓域検査を受けた延べ87,597例（1993年4月～2002年3月）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	なし	
	エンドポイント（アウトカム）	区分	
	1	超音波検査での膵の異常所見数	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	膵癌の内訳	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	膵の異常所見は753例（0.9%）で、膵癌4例であった。	
	結論	臓域検査では膵癌発見の効率は低い。腹部超音波検査の有所見者に超音波内視鏡検査や造影CT検査などの二次検査を行うことが有用。	
	備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	羽鳥 隆、福田 晃	
	レビューワーコメント	腹部超音波検査を用いた膵癌検査の非効率性について言及している。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Evaluation of routine sonography for early detection of pancreatic cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Jpn J Clin Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	26	
	号		
	ページ	422-427	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1996		
著者情報	氏名	氏名	所属機関
	筆頭著者	Tanaka S	大阪府立成人病センター研究所
	その他著者 1	Kitamura T	
	その他著者 2	Yamamoto K	
	その他著者 3	Fujikawa S	
	その他著者 4	Imaoka T	
	その他著者 5	Nishikawa S	
	その他著者 6	Nakaizumi A	
	その他著者 7	Uehara H	
	その他著者 8	Ishikawa O	
	その他著者 9	Ohigashi H	
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵臓同定に対するルーチン腹部超音波検査の診断の正確性について検討した。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	大阪府立成人病センター研究所		
対象者	腹部に異常を訴えた9,410例の患者 (計12,761回の腹部超音波検査) 1年間(1994年)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
介入 (要因曝露)	確診, 疑診, 精査勧告の3群に分けて検討		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	超音波所見	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	655例 (7%) で膵臓の一部が観察できなかったが, 411例で膵臓が疑われた。1995年末までに51例が膵癌であり, 内45例は膵管癌であった。膵癌51例中50例は膵癌所見陽性であったが, 1例は偽陰性であり, 膵癌所見陽性50例中4例は腫瘍径1cm以下であった。		
結論	膵臓同定に対する腹部超音波診断の正確性は高いので, 主たる手段として超音波検査を用いた膵癌の集団検診を目的とした詳細な研究は, 膵癌が急速に増加している日本で正当化されるであろう。		
備考			
レビュワー氏名	羽島 隆, 福田 晃		
レビュワーコメント	超音波検査施行者の基準が明確でないもの (よく訓練されたと思われる) が, 膵癌スクリーニングに対する腹部超音波検査の有用性を明らかにしている。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Main pancreatic duct dilation : A sign of high risk for pancreatic cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Jpn J Clin Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	32	
	号		
	ページ	407-411	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002		
著者情報	氏名	氏名	所属機関
	筆頭著者	Tanaka S	大阪府立成人病センター研究所
	その他著者 1	Nakaizumi A	
	その他著者 2	Ioka T	
	その他著者 3	Oshikawa O	
	その他著者 4	Uehara H	
	その他著者 5	Nakao M	
	その他著者 6	Yamamoto K	
	その他著者 7	Ishikawa O	
	その他著者 8	Ohigashi H	
	その他著者 9	Kitamura T	
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	主膵管拡張が膵癌の高リスクファクターであるかをレトロスペクティブに評価する。	
研究デザイン	Evidence level III		
セッティング	大阪府立成人病センター研究所		
対象者	膵前癌病変群39例および対照群10,244例 (1997~1999年)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
介入 (要因曝露)	ケースコントロール研究		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	腹部超音波における主膵管拡張	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	軽度膵管拡張 (2mm) は膵癌切除まで4年以上の前癌病変の65%に認められ, 年齢調整対照群では, 3.35%に認められた。また, 前癌病変群の拡張主膵管の平均直径は時間の経過とともに増加した。		
結論	主膵管の軽度拡張は膵癌に対する高危険のサインであり, 高危険患者の系統的検査は膵癌の早期発見に必要であると考えられた。		
備考			
レビュワー氏名	西野隆義, 白鳥敬子		
レビュワーコメント	主膵管の拡張が膵癌の前癌病変の発見に有用かを検討した後ろ向き研究。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A prospective study of detection of pancreatic carcinoma by combined plasma Kras mutation and serum CA19-9 analysis.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Pancreas	
	雑誌 ID		
	巻	25	
	号		
	ページ	336-341	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Dianxu F	Ruijin Hospital, Shanghai Second Medical University
	その他著者 1	Shengdao Z	
	その他著者 2	Tianquan, H	
	その他著者 3	Yu J	
	その他著者 4	Ruoqing L	
	その他著者 5	Zurong Y	
	その他著者 6	Xuezhi W	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	血中k-ras mutationと血清CA19-9の併用による膵癌診断の価値について。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	Ruijin Hospital, Shanghai Second Medical University		
対象者	膵癌を疑われた連続した58人 (1998年4月~1999年11月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	健康人21人vs膵癌41人	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	k-ras codon12 mutation	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	血清中の CA19-9	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	Kras mutationは健康人では検出されず、膵癌では70.7%が陽性だった。CA19-9上昇は膵癌の73.5%に認められた。膵癌の90.2%が両者のいずれかが陽性だった。		
結論	K-rasとCA19-9の併用により膵癌の検出率が向上した。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	清水京子, 福田 晃	
	レビューワーコメント	最近の論文であるが、新しい情報に乏しい。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Detection of Kras mutations in the plasma DNA of pancreatic cancer patients	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Gastroenterol	
	雑誌 ID		
	巻	39	
	号		
	ページ	56-60	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Uemura T	名古屋大学医学研究科病態制御外科学
	その他著者 1	Hibi K	
	その他著者 2	Kaneko T	
	その他著者 3	Takeda S	
	その他著者 4	Inoue S	
	その他著者 5	Okochi O	
	その他著者 6	Nagasaka T	
	その他著者 7	Nakao A	
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵癌の早期診断を正確に行うこと	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	名古屋大学医学研究科病態制御外科学		
対象者	膵癌切除例28		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	K-ras 遺伝子変異	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	原発巣では26例 (93%) に K-ras 遺伝子変異がみられ、そのうち9例 (35%) では血漿にも K-ras 遺伝子変異が認められた。		
結論	血漿中の K-ras 遺伝子変異の検出は、膵癌のスクリーニングやモニタリングに適用する可能性が示唆された。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	羽鳥 隆, 福田 晃	
	レビューワーコメント	血漿での K-ras 遺伝子変異の陽性率が低く、膵癌スクリーニングに効果的であるか疑問。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical significance of serum p53 antigen in patients with pancreatic carcinomas	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法:ファーストステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gut	
	雑誌 ID		
	巻	40	
	号		
	ページ	647-653	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997		
著者情報	氏名	氏名	所属機関
	筆頭著者	Suwa H	Department of Surgery, Kyoto University
	その他著者 1	Ohshio G	
	その他著者 2	Okada N	
	その他著者 3	Wang Z	
	その他著者 4	Fukumoto M	
	その他著者 5	Imamura T	
	その他著者 6	Imamura M	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	血清p53値が膵癌におけるp53変異を反映するか否かを検討する。	
研究デザイン	Evidence level IV		
セッティング	Department of Surgery, Kyoto University		
対象者	膵癌104例, 健康人35例, 慢性膵炎15例		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	なし		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	血清p53値	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	p52 免疫組織染色	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	血清p53値は、膵癌、健康人および慢性膵炎で、各々0.27±0.02、0.15±0.02、および0.15±0.02であり、膵癌で有意に高値であった。血清p53のcut off値を0.37ng/mlとすると膵癌での陽性率は22.1%であり、遠隔転移例でのp53陽性率は、遠隔転移陰性例に比べ、有意に高率であった。膵癌切除後に、血清p53値の有意な低下を認めた。p53免疫組織染色では、膵癌における陽性率は45.9%であった。血清p53値は、p53免疫染色陽性例が陰性例に比べ有意に高値を示した。血清p53陽性例の80%が免疫染色においてp53陽性を示した		
結論	膵癌の進展により血清p53値の増加がみられ、p53変異に基づくp53の組織集積と相関すると考えられた。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	西野隆義, 白鳥敬子	
	レビューワーコメント	膵癌症例で、TNM分類あるいはStageの記載がされていない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Carcinoma of the pancreas and papilla of Vater: Presenting symptoms, signs, and diagnosis related to stage and tumour site. A prospective multicentre trial in 472 patients. Norwegian Pancreatic Cancer Trial	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法:セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Scand J Gastroenterol	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号		
	ページ	317-325	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1992		
著者情報	氏名	氏名	所属機関
	筆頭著者	Bakkevdol KE	Dept. of Surgery, Haukeland University Hospital, Norway
	その他著者 1	Arnesjo B	
	その他著者 2	Kambestad B	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵癌・乳頭癌における臨床症状、診断までの時間、病期、腫瘍部位別の診断能を検討。	
研究デザイン	Evidence level V		
セッティング	Dept. of Surgery, Haukeland University Hospital, Norway		
対象者	膵癌442例, 乳頭癌30例 (1984年4月~1987年4月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
介入 (要因曝露)	臨床症状、診断までに要した期間、画像検査		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	臨床症状	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	診断までの時間	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	画像検査	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	黄疸は比較的早期に多く、腹痛・体重減少はより進行例で多かった。全体の診断能では、感度はERCP: 79%, CT: 75%, US: 57%, 血管造影 43%, FNA 86%, PTC: 85%であった。Stage IIに限れば、PTCとERCPの感度が78%, CT: 52%, US: 40%であった。発症から診断までに要した時間はStage Iおよび乳頭癌で最短であった。		
結論			
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	水野伸臣, 澤木 明	
	レビューワーコメント	この論文では特に何かを結論づけてはいない。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic cancer versus chronic pancreatitis: Diagnosis with CA 19-9 assessment, US, CT, and CT-guided fine-needle biopsy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法:セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Radiology	
	雑誌 ID		
	巻	178	
	号		
	ページ	95-99	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1991		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	DelMaschio A	Department of Radiology, University Hospital, Milan, Italy
	その他著者 1	DelMaschio A	
	その他著者 2	Vanzulli A	
	その他著者 3	Sironi S	
	その他著者 4	Castrucci M	
	その他著者 5	Mellone R	
	その他著者 6	Staudacher C	
	その他著者 7	Carlucci M	
	その他著者 8	Zerbi A	
	その他著者 9	Parolini D	
その他著者 10	Faravelli A et al.		

一次研究の8項目	目的	膵臓癌診断におけるCA19-9, US, CT, CT-guided FNABの診断能の比較。
	研究デザイン	Evidence level IV
	セッティング	Department of Radiology, University Hospital, Milan, Italy
	対象者	膵癌あるいは慢性膵炎 (CP) が疑われ、USあるいはCTで膵腫瘍を認めた81例 (膵癌54例, CP 27例) (1984年12月~1986年12月)
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)
	介入 (要因曝露)	CA19-9, US, CT, CT-FNAB
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント 区分
	1	診断能 (感度, 特異度, PPV, NPV) 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	CA19-9, US, CT, CT-FNABの診断不能率は0, 25, 19, 6%, 感度は81, 88, 94, 100%, 特異度は81, 90, 95, 100%, PPVは90, 95, 98, 100%, NPVは69, 95, 86, 100%であった。
	結論	CT-FNABは膵臓癌診断において唯一信頼できる検査方法である。膵癌あるいはCPが疑われた場合、まずUSを行い、次にCT-FNABを行うべきである。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	水野伸匡, 澤木 明
	レビューワーコメント	この研究では膵癌の大きさに言及していない。

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Dynamic imaging of pancreatic diseases by contrast enhanced coded phase inversion harmonic ultrasonography	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法:セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gut	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号		
	ページ	854-859	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Kitano M	Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Kinki University School of Medicine, Ohno-Higashi, Osaka-Sayama, Japan
	その他著者 1	Kudo M	
	その他著者 2	Maekawa K	
	その他著者 3	Suetomi Y	
	その他著者 4	Sakamoto H	
	その他著者 5	Fukuta N	
	その他著者 6	Nakaoka R	
	その他著者 7	Kawasaki T	
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵臓癌診断におけるcontrast enhanced coded phase inversion harmonic ultrasonography (CE-US)法の検討。
	研究デザイン	Evidence level V
	セッティング	Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Kinki University School of Medicine, Ohno-Higashi, Osaka-Sayama, Japan
	対象者	膵腫瘍が疑われた65名 (2001年3月~2003年8月)
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)
	介入 (要因曝露)	CE-US vs 造影CT (CE-CT) vs EUS
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント 区分
	1	CE-USでは血流パターン 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	CE-CTでは造影効果 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	EUS後 1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	CE-USでは、膵癌の67%はhypovascularでCE-CTの結果と相関した。2cm以下の小病変に対する感度は、造影CT 68%, EUS 95%, CE-US 95%。2cm超では3群間で差はなし。
	結論	CE-USは膵腫瘍の検出および鑑別診断に有用。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	水野伸匡, 澤木 明
	レビューワーコメント	低侵襲な検査法である。血流パターンの定量化が課題。

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiologic diagnosis and staging of pancreatic ductal adenocarcinoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法:セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタアナリシス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (12)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Radiol Clin North Am	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号		
	ページ	121-128	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1989		
著者情報	氏名		所属機関
	筆頭著者	Freeny PC	Virginia Mason Clinic
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	各種画像検査 (CT, US, ERCP, 血管造影) による膵癌診断と病期診断能に関する総説。
	データソース	Virginia Mason Clinic
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	膵癌診断において、ダイナミック CT では感度 98.8% (159/161) で、13 例が疑陽性であった。US の診断能は CT より劣る。ERCP で正常膵管像であった膵癌症例は 2.8% (15/530) であった。血管造影は内分泌腫瘍などの鑑別に有用である。一方、病期診断においては、CT にて 161 例中、13 例のみが切除可能と判断された。68% が局所進展期によって、84% が血管浸潤によって切除不能であった。血管浸潤において、血管造影は 74% の症例において CT と同様の情報が得られたが、21% では CT でしか所見が得られず、5% の症例のみ血管造影が CT に勝っていた。
結論	ダイナミック CT は膵癌の診断と病期診断において、唯一、最良の検査である。	
備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	水野伸匡, 澤木 明
	レビューワーコメント	総説であり、症例の内訳 (Stage など) や結果などについての詳細な結果がなく、エビデンスレベルは低くなる。Evidence level VI

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic cancer detection with magnetic resonance cholangiopancreatography and endoscopic retrograde cholangiopancreatography: A prospective controlled study	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法:セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタアナリシス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (4)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻	356	
	号		
	ページ	190-193	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2000		
著者情報	氏名		所属機関
	筆頭著者	Adamek HE	ドイツ、メインツ大学病院
	その他著者 1	Albert J	
	その他著者 2	Breer H	
	その他著者 3	Weitz M	
	その他著者 4	Schilling D	
	その他著者 5	Riemann JF	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	MRCPによる膵癌と膵炎の鑑別診断能を評価。	
	研究デザイン	Evidence level III	
	セッティング	ドイツ、メインツ大学病院	
	対象者	臨床的に膵癌が強く疑われた141人中の124人 (1996年2月~1998年1月)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	ERCPとMRCP	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	ERCP診断の感度、特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	MRCP診断の感度、特異度	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	膵癌に対するERCPの感度、特異度は70.3%、94.3%、MRCPの感度、特異度は83.8%、96.6%で有意差は認めなかった。		
結論	膵癌を疑われる場合、安全性を考慮するとMRCPが勧められる。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	澤木 明, 水野伸匡	
	レビューワーコメント	プロスペクティブな比較試験であるので症例対照研究よりエビデンスレベルが高いと考え、レベルIIIとした。本試験でMRCPの非劣勢が示されているが、ERCPの所見がどこまで拾い上げられているかは記載されていないので、ERCPの診断能も考慮しないとERCPが過小評価される可能性がある。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Differential diagnosis between benign and malignant localized stenosis of the main pancreatic duct by intraductal ultrasound of the pancreas	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.ネット研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Gastroenterol	
	雑誌 ID		
	巻	89	
	号		
	ページ	2038-2041	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1994		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Furukawa T	Second Department of Internal Medicine, Nagoya University School of Medicine, Japan
	その他著者 1	Tsukamoto Y	
	その他著者 2	Naitoh Y	
	その他著者 3	Hirooka Y	
	その他著者 4	Hayakawa T	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵臓癌を疑われた患者に対するMR, MRCP, MR angioの精度を前向きに評価すること。
	研究デザイン	Evidence level IV
	セッティング	Second Department of Internal Medicine, Nagoya University School of Medicine, Japan
	対象者	膵臓癌を疑われた26名 (CP 12名, PC 14名)
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)
	介入 (要因曝露)	EUS, CT, ERP vs IDUS (30 MHz)
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント
		区分
	1	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	診断能
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	膵癌診断における感度は、EUS, CT, ERP, IDUSで各々92.9%,64.3%,85.7%,100%。特異度は58.3%,66.7%,66.7%,91.7%であった。
	結論	IDUSは膵臓癌を疑われた患者の膵臓癌診断に有用であった。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	水野伸匡, 澤木 明
	レビューワーコメント	今回の研究は膵臓癌を疑われた患者に限定しており、他の病態への応用が問題として残る。

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prospective evaluation of pancreatic tumors: Accuracy of MR imaging with MR cholangiopancreatography and MR angiography	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法：セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.ネット研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Radiology	
	雑誌 ID		
	巻	224	
	号		
	ページ	34-41	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Lopez Hanninen E	ドイツ, フンボルト大学
	その他著者 1	Amthauer H	
	その他著者 2	Hosten N	
	その他著者 3	Ricke J	
	その他著者 4	Bohmig M	
	その他著者 5	Langrehr J	
	その他著者 6	Hintze R	
	その他著者 7	Neuhaus P	
	その他著者 8	Wiedenmann B	
	その他著者 9	Rosewicz S	
その他著者 10	Felix R		

一次研究の8項目	目的	膵臓癌を疑われた患者に対するMR, MRCP, MR angioの精度を前向きに評価すること。
	研究デザイン	Evidence level IV
	セッティング	ドイツ, フンボルト大学
	対象者	膵臓癌を疑われた66例 (悪性44例と良性22例) (1999年6月~2000年7月)
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)
	介入 (要因曝露)	MRCPとMR angio
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント
		区分
	1	信号強度
	2	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	描出能(MRCP, MR angio)
	4	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	全体での正診率91%。悪性病変は感度95%。特異度は82%。手術前の検討では局所の腫瘍進展度と血管侵襲の正診率は89%と94%。肝転移は82%の正診率であった。
	結論	膵臓癌患者に対してMRCPとMR angioは無侵襲で診断できる方法である。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	澤木 明, 水野伸匡
	レビューワーコメント	前向き研究であり、Nは多くないが比較検討されているためレベルIVとした。MR検査の診断能の検討がされているが、標準であるCTとの比較ではない点に注意が必要。

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic tumors: Comparison of dual-phase helical CT and endoscopic sonography	
	論文の日本語タイトル	超音波内視鏡所見の点検評価による膵癌および膵嚢形成性膵炎の鑑別診断	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法: セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	臓腑	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号		
	ページ	430-434	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
著者情報	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1996	
	氏名	所属機関	
	筆頭著者	仲田文造	大阪市立大学第一外科
	その他著者 1	西野裕二	
	その他著者 2	小川佳成	
	その他著者 3	川崎史寛	
	その他著者 4	横松秀明	
	その他著者 5	吉川和彦	
	その他著者 6	曾和融生	
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			

一次研究の8項目	目的	EUSにおける膵癌と膵嚢形成性膵炎の鑑別診断。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	大阪市立大学第一外科	
	対象者	膵癌64例と膵嚢形成性膵炎32例(1986年11月~1995年12月)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	オリンパス社製ラジアル走査式超音波内視鏡診断装置所見を合計10項目で評価	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	直接所見の点検化	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	間接所見の点検化	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	直接所見は3点以上あるいは間接所見2点以上とすると膵癌の陽性率は86%、特異度は84%。正診率は体部が93%と高く、腫瘍径ではTS1とTS4が100%であった。	
	結論	EUS所見による本点検評価が膵癌と膵嚢形成性膵炎の鑑別に有用。	
	備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	澤木 明, 水野伸匡	
	レビューワーコメント	画像診断で鑑別困難な膵癌と膵嚢形成性膵炎に対する画像診断能の向上の可能性がある点は評価される。超音波検査の術者、検査機器によるバイアスが考慮されていない点は注意が必要であるが、画像診断を客観的に捉えらるる工夫がされており、症例数とstudy designよりIVとした。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pancreatic tumors: Comparison of dual-phase helical CT and endoscopic sonography	
	論文の日本語タイトル	超音波内視鏡所見の点検評価による膵癌および膵嚢形成性膵炎の鑑別診断	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	膵癌の診断法: セカンドステップは何か	
書誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (7)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	AJR Am J Roentgenol	
	雑誌 ID		
	巻	170	
	号		
	ページ	1315-1322	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
著者情報	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1998	
	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Legmann P	Department of Radiology, Universite Rene Descartes, Hopital Cochin, Paris, France
	その他著者 1	Vignaux O	
	その他著者 2	Dousset B	
	その他著者 3	Baraza AJ	
	その他著者 4	Palazzo L	
	その他著者 5	Dumontier I	
	その他著者 6	Coste J	
その他著者 7	Louvel A		
その他著者 8	Roseau G		
その他著者 9	Couturier D		
その他著者 10	Bonnin A		

一次研究の8項目	目的	膵癌の診断および staging における Dual-phase helical CT (DPH-CT)とEUSの比較。	
	研究デザイン	Evidence level IV	
	セッティング	Department of Radiology, Universite Rene Descartes, Hopital Cochin, Paris, France	
	対象者	膵腫瘍が疑われた30例 (1993年3月~1996年8月)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	膵癌の診断, stagingにおけるDPH-CT vs EUS	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	描出能	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	診断	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	T因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4	N因子	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	診断感度はDPH-CT 92%, EUS 100%. StagingではDPH-CT, EUSとも93%。切除可能と判断した正診率はともに90%。切除不能と判断した正診率はDPH-CT 100%, EUS 86%であった。	
	結論	すべての項目において両者は同等の診断能であった。	
	備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	水野伸匡, 澤木 明	
	レビューワーコメント	診断における特異度はDPH-CT 100%である一方、EUS 33%であり、さらに15 mm以下の小病変での検出率、stagingではDPH-CT 67%、EUS 100%であり、両者に各々長所・短所がみられた。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Diagnosis and staging of pancreatic cancer by endoscopic ultrasound	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法:セカンドステップは何か	
雑誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Radiol	
	雑誌 ID		
	巻	71	
	号		
	ページ	492-496	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1998	
	著者情報	氏名	所属機関
筆頭著者		Akahoshi K	Dept. of Internal Medicine III, Kyushu University, Japan
その他著者 1		Chijiwa Y	
その他著者 2		Nakano I	
その他著者 3		Nawata H	
その他著者 4		Ogawa Y	
その他著者 5		Tanaka M.	
その他著者 6		Nagai E	
その他著者 7		Tsuneoshi M	
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	膵癌の診断および術前検査としてのEUSの有用性と問題点の評価。	
研究デザイン	Evidence level V		
セッティング	Dept. of Internal Medicine III, Kyushu University, Japan		
対象者	膵癌が疑われた96例		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
介入 (要因曝露)	臨床症状、検査結果あるいは他の画像検査にて膵癌が疑われた症例に対するEUSの介入		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	診断	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	腫瘍径	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	Stage	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	膵癌診断の感度 89%、特異度97%。感度は腫瘍径、占拠部位に依存しなかった。正診率は腫瘍径3 cm以下90%、3 cm以上30%。T因子、N因子の正診率は64%、50%であった。		
結論	EUSは膵癌の早期診断および術前stagingに有望な検査法である。		
備考			
レビュワー氏名	水野伸匡、澤木 明		
レビュワーコメント	他の検査方法(CT等)との比較がなされていない。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	膵臓癌	
	タイプ	臨床専門雑誌	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Echo-enhanced color and power-Doppler EUS for the discrimination between focal pancreatitis and pancreatic carcinoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	膵癌の診断法:セカンドステップは何か	
雑誌情報	研究デザイン	1.レビュー 2.メタ分析 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.非比較試験 6.コホート研究 7.症例対照研究 8.症例集積 9.症例報告 10.横断研究 11.比較観察研究 12.非比較観察研究 13.その他 (9)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gastrointest Endosc	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号		
	ページ	784-789	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2001	
	著者情報	氏名	所属機関
筆頭著者		Becker D	ドイツ、フリードリッヒ・アレクサンダー大学
その他著者 1		Strobel D	
その他著者 2		Bernatik T	
その他著者 3		Hahn EG	
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	USドプラによる血流の違いによる膵炎と膵癌の鑑別について検討する。	
研究デザイン	Evidence level V		
セッティング	ドイツ、フリードリッヒ・アレクサンダー大学		
対象者	連続した膵成分を有しなし膵腫瘍をもつ23例(1998年6月~1998年12月)		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
介入 (要因曝露)	ドプラ法と超音波造影剤による造影超音波内視鏡検査		
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
1	EUSドプラ法	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	膵腫瘍	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3	膵実質	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	膵実質と比較して低血流の腫瘍は15例あり、全例膵癌で、高血流であった8例中1例が膵癌であった。臨床経過とあわせて残りの7例は膵炎であった。感度94%、特異度100%であった。		
結論	パワードプラを用いた血流の評価では、膵癌と膵炎の鑑別診断はCTなどの他の検査法と遜色ない結果であった。		
備考			
レビュワー氏名	澤木 明、水野伸匡		
レビュワーコメント	ドプラ法を用いた血流の評価が良悪性の鑑別診断に有用であることが示されているが、背景となる膵が正常であることが前提であり、またCTに対する優越性は示されていない。		